

2024年度 光塩幼稚園 学校評価報告書

2025年 3月
(学)光塩女子学園 光塩幼稚園

1 本園の教育目標及び目指す子ども像

- <教育目標>
カトリック教育を基本とし、「世の光 地の塩として社会に貢献できる」人間形成を、幼稚園から培うことを目標とする。
- <目指す子ども像>
○神さまからいただいた自分のいのちと生きとし生けるすべての命を大切にできる子ども
○感謝の心、思いやりの心を大切にできる子ども
○自分から挨拶のできる子ども

2 本年度の重点目標及び具体的な取組

- <重点目標>
- 保育内容の改善・充実
 - 特色ある教育活動「子どものそばにいつも絵本」の教育環境及び読書活動の広がり
 - 「0歳から6歳まで」の子育て支援(共育・協働)の改善・充実及び広報活動の拡充
- <具体的な取組>
- 保育内容の改善・充実
 - 「建学の精神」を土台とし、今の幼稚園教育を踏まえるとともに、今の園児の実態に即した保育内容の改善・充実
 - カトリック研修の継続実施
 - 特色ある教育活動「子どものそばにいつも絵本」の教育環境及び読書活動の広がり
 - 図書室「えほんのもり」及び各保育室の読書環境のさらなる充実
 - 司書との連携を強化し、「読書」を核とした保育実践の推進(教育計画に基づいた保育実践)
 - 未就園児クラスにおいても、図書室「えほんのもり」を活用し、子育て支援の拡充
 - 「0歳から6歳まで」の子育て支援(共育・協働)の改善・充実及び広報活動の拡充
 - 未就園児クラスのカリキュラムの再構築及び子育て相談の充実
 - オープンスクール、自由参観の実施ホームページ、インスタグラムの定期的な配信及び適時の配信

3 評価項目に対する自己評価及び学校評価関係者関係者評価

評価内容	具体的評価項目	A 達成できた B まあまあ達成できた C 達成できていない		○成果 ★課題及び改善策	
		総合	幼稚園	評価	感想・意見等 学校関係者
1 建学の精神及び教育目標の具現化	① 「世の光・地の塩として社会に貢献できる」人間形成を培うことを目標として日常の保育を行っている。	A	○「建学の精神」及び「教育目標の具現化」について、幼稚園全体で意識して、日々の保育が進められるようになってきている。 ○園長講話・懇談会・園だより、保育参観等にて、「建学の精神」及び「教育目標の具現化」について伝えることにより、保護者等にも意識していただけるようになってきている。 ★園全体で、日々の保育にてどのように具現化をしていくのかを、今まで以上に検討し、PDCA(企画・立案→実践→評価・改善)を繰り返し、より充実していく。	A	○「建学の精神」及び「教育目標」等について、園だより、園長講話、保護者会等を通して、保護者にも周知していることが大切であるということに改めて感じた。 ○「目指す子ども」について、建学の精神、保育内容、教育方針が具現化され、子どもたちの言葉遣い、1階のスペースの掲示物、オープンスクールでの保育の様子から「目指す子ども」の具現化が見えてきている。 ○先生方が同方向を向き、保育を進めていることに、保護者はとても安心感をもつことができている。 ★日々の保育において、一人ひとりを大切に保育(よさや可能性。個性が発揮できる保育)どのようなことなのか気になる場所である。今後も園と保護者が同方向を向き、それぞれの役割を果たしながら子どもたちの成長を支えていきたい。
	② 「目指す子ども」を具現化するために、園全体で教育課程・年間指導計画を作成している。				
	③ 学園の建学の精神及び園の教育目標について、保護者等に周知することができる。				
2 カトリック園としての自覚と保育の実現	① 「一人ひとりがかけがえのない存在である」というカトリックの精神に基づき、日々の保育を実践している。	A	○園全体で再構築したカトリック教育年間カリキュラムに基づき、保育を具体的に進めることができている。その結果、子どもたちの日頃の行動にも見られるようになってきている。(挨拶、自分と人を大切にする、人のために自分のできることを見つけ行動する等) ○宗教の時間は、満3歳児こり8回、年少ほし10回、年中ゆり16回、年長ばら16回、聖歌の時間は、各学年10回実施することができた ○宗教の時間・聖歌の時間での教養を、担任がさらに、深め、広げていることが、週案に明確に位置づいてきている。(今年度は、年長組において、「宗教の時間」「聖歌の時間」合同で幼稚園での集大成の様子を保護者に参観していただいた) ★担任による「宗教の時間」「聖歌の時間」での学びを、日常の保育にいかし、子どもたちの日常の行動につながってきている。	A	○「宗教の時間」「聖歌の時間」での学びを先生方ご自身の保育の時間に広め、深めていることに先生方の並々ならぬ意欲と熱意を感じる。また、園児からの発言のなかに思いがけない発想の転換、新しい可能性を敏感に受け止め、それをいかしている先生方の資質を信頼している。 ○実際に、「宗教の時間」「聖歌の時間」の合同での保護者参観日に出席をし、園児ののびのびとした反応に驚いた。この時間の体験が、園児たちのこれからの将来にどんな影響を与え続けるのかが楽しみである。 ★担任による「宗教の時間」への取組について、勇気をもって取り組んでいただきたい。先生方ご自身のかけがえのない体験になると祈りつつ…
	② 「宗教の時間」で園児が感じたこと、学んだことを、常に意識し、日常の保育にいかすことができている。				
	③ 「聖歌の時間」で感じたこと、学んだことを、日常の保育にいかし、園児の心の豊かさや感性を培っている。				
3 教育課程の編成及び管理	① 建学の精神、教育目標、園経営方針を踏まえ、教育課程を編成し、柔軟な考えをもち、常にPDCAを行っている。	A	○今週のねらい・指導内容・環境等を明確にし、ふりかえりを行い、次の保育につなげていけるよう、週日案の再構成を行った。その結果、毎日、毎週、毎月、年間の見直しをもち、実践できるようになってきている。 ○今年度の重点目標である図書室の充実については、新しく、広い図書室「えほんのもり」を設置し、司書によるお話し会、日頃の保育での活用、蔵書(約2000冊)環境整備、絵本の貸し出し(年長は年間を通して実施 満3歳児・年少・年中は1・2学期の終業式に親子で実施)等、前年度に引き続き、読書活動の充実が図られてきている。 ○未就園児クラスにおいても、司書による読み聞かせや担任による読み聞かせを年間カリキュラムを基に実施した。 ★教育課程の編成、週日案の作成について、今年度以上に、子どもの実態やニーズに即した検討、PDCAを常時行い、子どもたちにとって学びのある楽しい幼稚園生活が送れるよう園全体で実施していく。 ★「読書」を核とした保育の実践が定着してきた。今後は、「どうきょうすくわくプログラム」の実施(探究学習)を進めていく。	A	○この会議に出てはじめて年間・月間・週日案という存在を知った。 ○適切な週案の管理による保育の充実が園全体で進んでいると感じた。毎週の振り返りをもとに次週、次年度の教育課程の編成のたmeの見直しが柔軟にできることを期待する。 ○「えほんのもり」が積極的に活用されており、子どもたちが絵本を開き、読むこと、聞くこと、想像すること、探究することを自然に身近に感じていることがとてもよい。 ○「えほん」とのかかわりが、単に図書室だけではなく、保育の様々な場面でいかされている。さらに、色々な広がりや可能性を含んでいるのが素晴らしいと思う。 ★「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、先生方だけではなく保護者にも共有していただき、家庭でも同じ視点をもって子どもたちを見守っていかないと考えた。 ★講師による保育の成果について、運動会や行事等の歌唱の場面で感じ取ることができるが、担任との連携により、日常の保育にも大いにいかしていただけたとよい。英語の時間については、その時間で終わっていないか。英語の時間の設定をPRしているが、日常の保育にいかされているか、少し疑問ももった。
	② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し、指導計画を作成している。				
	③ 図書室「えほんのもり」を積極的に活用するとともに、司書と連携し、読書活動を推進している。				
4 教員の指導力向上及び資質向上	① 日々の保育において、一人ひとりの園児の育ちを配慮した指導(指導内容・言葉かけ等)を心がけ実践している。	A	○光塩日野幼稚園との合同研修の際、人権にかかわる研修を初任者研修にて実施した。子どもたちの育ちは様々であり、指導の際、教師自身の言葉かけ、語彙力の豊さが求められていることを、常に意識した指導を行っている。 ○学園全体の建学の精神を学ぶ研修、日野幼稚園との合同研修(特別支援教育・経験5年目までの職員対象の研修)を実施することができ、教員の指導力及び資質向上につながった。 ★研究主題「『えほんのもり』から広がるわくわくどきどきの世界」とし、園内研修の充実を図り、園全体の指導力及び資質の向上を目指していく。 ★「光塩幼稚園研修体系」光塩日野幼稚園と連携し作成した。研修体系をもとに、職層研修を実施していく。 ★来年度は、人権研修を年2回実施し、人権感覚を高めていく。	A	○教員自身の自己評価、年3回の園長面談を通して、先生方ご自身の成果と課題が明確となり、保育の資質向上につながっていると考える。 ○いつ来園しても、保育室・園全体が季節の掲示や子どもたちの作品が飾られていて、「自分たちは大切にされている、愛されている、ここにいいたいんだ」と感じることができる素晴らしい環境である。 ○学園全体の研修、姉妹園である日野幼稚園との合同研修を通して連携が増している。建学の精神について、保育の内容、指導力の向上について相乗効果が期待される。今後も継続し、互いの資質向上を期待する。 ★保育の参観を継続的に行うことにより、学校関係者評価が適切に評価できない。よって、研修の実施状況、指導力の向上をわかりやすく説明できる資料の提示が必要である。 ★職層研修、園内外研修は、先生方ご自身の保育の向上には必要性を感じていると思う。特に、年次を重ねるほど必要性を感じられる。他方面での研修にはげまれることを期待する。
	② 日々の指導において、環境構成(整然とした保育室、季節感があふれる掲示等)を行い、園児の感性や創造性、安全面に配慮している。				
	③ 園外の研修に積極的に参画をし、学びを共有するとともに、日々の実践に活用している。				
5 園児理解におけるチーム連携	① 人権に配慮し、発達段階に応じたかかわり、言葉にならないサインを受け止め、園児の気持ちに寄り添うようにしている。	A	○常に、子どもの言葉にならない気持ちや言葉を言語化したり、寄り添ったりし、子どもたちが安心して幼稚園生活を過ごせるよう保育を進めている。 ○特別に配慮を要する子どもたちについて、保護者と悩みや課題を共有し、具体的な目標をたて、同じ方向を向き、それぞれの立場で進めることができている。また、保護者の理解を得、関係諸機関とも連携を図り、年間5回巡回指導を実施し、特別に配慮する子どもたちの対応について学び、実践することができた。 ★特別に配慮を要する子どもたちへのかかわり方、保育の進め方、基礎知識等について、園全体で共通理解を図ることができた。今後は、個別支援計画の作成も視野に入れて、園児理解を進めていく。 ★来年度は、人権研修を年2回実施し、人権感覚を高めていく。	A	○人権意識をもち、一人ひとりに配慮をした保育というのは大変な面もあるが、保護者にとって安心して子どもを預けられる理由の一つになっていると思う。多様性の時代であるので、子どもたちが互いに違いを理解しながらお互いを尊重できる時間を自然にもてるよう引き続きの指導を期待する。 ○区の発達支援センターの巡回指導を積極的に活用し、一人ひとりのニーズに対応した保育がチームで進められている点は評価できる。 ★特別に配慮を要する子どもたちへの理解について、先生方はもとより、保護者の理解も必要であると考えている。今後は、保護者への幼児理解教育も視野に入れていただきたい。 ★かけがえのないすべての園児に熱意と対応に力を傾けることこそがカトリック園が向かうべき方向性である。様々な困難があるとは思いますが、経験と研修を積み重ねながら根気よく取り組んでいただきたい。
	② 幼稚園と家庭と連携を図り、一人ひとりの成長を喜び合うとともに、課題についても共有し、解決に向けて進めている。				
	③ 特別に配慮を要する園児について、特性を理解し、かかわりについて園全体で話し合いを進め、実践している。				

6	安全管理及び教育環境	①	一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に実施し、防災意識を高めることができています。	A	○避難訓練(火事・地震・水害・不審者を想定・引取り訓練)を年間7回実施し、防災意識や危機管理意識を高めている。 ○健康管理(手の洗い方・健康なからだ等)について年間3回実施し、自身の健康や食育について興味関心ももてるよう、発達段階に応じた指導を進めることができた。	A	○計画的な安全指導及び定期的な点検を実施している報告を受け、安全安心な幼稚園づくりに努めていることについて評価できる。子どもたちを不必要に怖がらせることなく、かけがえのない命を守る訓練の継続をお願いしたい。 ○健康管理・食育についても、子どもの食への関心を配慮しながら進めていることは、これからも継続的に進めていっていただきたい。 ★仮園舎、新園舎への移転を控えている状況になる。今までの安全指導をはじめ、安全に配慮し進めていっていただきたい。 ★遊具を活用した遊びにおいて、常に、園児の安全を配慮をした保育心がけていることは評価できる。さらに、子ども自身の危機管理意識、予知能力を育てていくことも必要であると考え。保護者理解も必要である。 ★教師自身の危機管理意識を高めていくことが必要である。具体的に、通信が不可能になったり、停電・断水になったりすることを想定した訓練も必要であると考え。
		②	施設及び遊具等の点検を全職員で定期的に行い、危機管理意識をもち安全管理の徹底を図ることができています。		★来年度は、年間実施回数は今年度と同様とし、実施内容の充実・改善を図り、危機管理意識や防災意識を高めていけるよう、年間指導計画の再検討を行う。		
		③	日常の保育において、健康管理及び食育について、園児たちが興味関心をもつような実践をおこなっている。				
7	子育て支援の充実	①	0歳～3歳までの未就園児の各事業が保護者にとって満足できるものになっている。	A	○0歳～1歳未就園児「にじこランド」では、今年度も引き続き子育ての先輩であるOGの方にも参画していただき、子育ての相談体制も導入することができ、子育てへの安心感や自信につながっている様子が見られるようになってきている。また、年間を通して参加していただき、毎回、定員いっぱいとなっている状況となった。 ○満2歳～満3歳児「そら組」については、担任が企画運営し、親子で保育を体験できるよう進めてきた。その結果、満3歳児・年少の入園につながり、98パーセントの入園となった。 ○預かり保育については、預かり時間を18時から18時30分にしたこと、定員なしにしたことにより、保護者から「満足している」との回答が3.39から3.77(4点満点)であった。 ★重点目標であった「0歳から6歳まで」の子育て支援(共育・協働)の改善・充実」は、達成できた。今後は、様々なアイデアを具体的な形にし、さらなる子育て支援の充実を図っていく。	A	○今年度の取組は、とても迅速であり、保護者等のニーズに踏まえた変革であった。保護者が望む改善点を受け止め、可能な限り迅速に対応する姿勢が保護者にも浸透してきている。 ○0歳～1歳未就園児クラス「にじこランド」の子育てのOGにも参画していただいたことはとてもいい企画であると思う。子育てに不安や悩みをもっている親にとって、安心できる場となっている取組だと思う。 ○未就園児クラスは、生まれた時から光塩に親しんでもらい、光塩のよさを感じていただけるよい場であるということが実感できたと思う。そして、親子クラスにもつながり、4年保育・3年保育につながってきていることに評価できる。 ★預かり保育については、4年保育の子どもたちの利用が増えてきている。現在は、縦割りで行われている預かり保育であるが、子どもたちの状況を大切に、目的、内容、方法等について検討をし、具体的に進めていくことが大切である。
		②	預かり保育の充実(預かり時間、保育の内容等)が保護者にとって満足できるものになっている。				
		③	子育ての相談体制の充実(日々の保護者とのかわり、保護者会等)に向けて、積極的にかかわっている。				
8	幼稚園のPR活動の充実	①	ホームページ、Instagram等を活用し、園の特色や子どもの様子を伝え、園のPR活動を積極的におこなっている。	A	○日常の幼稚園生活をPRするために1週間に1度はInstagramをあげることを目標に進めてきている。その結果、入園説明会等で「Instagram、ホームページを見て、説明会に来ました」という声が増え、80%近くになってきた。 ○オープンスクール(年間3回)園庭開放(体験5回)説明会(年間5回)未就園児の体験会・説明会(年間3回)を実施した。第1回のオープンスクールでは、40組90人近くの保護者・未就園児等の参観があった。「幼稚園のことが理解できました」「おさまたちが、とてもやさしくあいさつができています」等々、幼稚園のよさを実感していただくことができた。 ★園児・児童との連携が幼稚園から発信したものの実現できなかった。2025年度は、園児・児童の交流を実現する。	A	○昨年度の委員からの要望でもあった、積極的、定期的なInstagramやホームページの掲載について、今年度は、行事のみならずInstagramの掲載が定期的になり、幼稚園の様子が在園児以外にもよくわかるようになってきた。 ○オープンスクールの実施は画期的であり、「百聞は一見に如かず」であり、おさまを光塩幼稚園に通園させるイメージができたとともに、参観者一人一人に丁寧に丁寧に対応されている様子が見られて入園につながる効果的な取組であると思う。 ★幼稚園と初等科とのかけはしプロジェクトが進まずとのこと。来年度は、ぜひ、実現していただきたい。 ★オープンスクール、説明会等の保護者アンケートや振り返りをしっかりと行い、保護者がどのようなことを望んでいるかを分析し、PR活動の改善を進め実施していくことが大切である。
		②	入園説明会・園児募集について、時期や説明会の内容・方法等、園児募集に効果的なPR方法になっている。				
		③	幼稚園から初等科への架け橋プロジェクトを意識し、連携を図ることができている。				
自由意見		○カトリックの人間観を基に、自分自身を愛すること、他者を尊重すること、知識や技能を広げることが相互に関連づけられた保育が工夫されているように感じる。目にみえてできることと、生涯にわたって人生を支える人間性の形成のバランスのとれた保育が、保護者の方や入園を考えている人たちにも伝わっているのではないだろうか。 ○カトリック園として、あたたかさはずっと変わらず、先生方はいつも愛をもって子どもたちに接してくださる…そんな姿を拝見して「世の光 地の塩」の尊さを再認識し、わが子たちにもしっかりと浸透しているなど卒園しても様々な場面で実施している。 ○幼稚園の運営がオープンになり、特色ある活動が深まり、園児数も増え、いっそう活力ある幼稚園になったことは大きな成果である。 ○この1年、園が進化しているのを感じることができた。保護者アンケートにもあったように、教育環境、安全環境、子育て支援において、園が、常に改善と工夫を重ねていることが伝わり、保護者としてとても嬉しく思う。特に、建学の精神や教育目標が、園全体でしっかりと共有され、子どもたちにも自然と伝わっている様子を見て安心して子どもを通わせられると思う保護者の皆様がが増えてきていると感じる。 ○幼稚園全体がチームになってきている。今以上に、かけがえのない存在である子どもたちのためにチームで育てていただきたい。					

4 総合的な評価

評価	設定した評価への理由
A	<p>○幼稚園全体・・・学校評価関係者評価委員の方々が、昨年度本園の教育目標や重点目標等を理解していただき適切な評価を受けることができた。教員も自己評価を実施することによって、年々、評価項目を意識して日々の保育を進めるようになってきた。</p> <p>○重点目標1・・・「宗教の時間」「聖歌の時間」での学びを、日常の保育のなかで具現化したり、再度、子どもたちと一緒に振り返りをしたりして、子どもとともに学びを深めている。今後は、「担任による宗教カリキュラム」に基づいた実践を行い、さらなる充実を目指す。</p> <p>○重点目標2・・・図書室「えほんのもり」の教育環境が整い、司書と連携し読書活動を進めている。このことについては、保護者や学校関係者評価委員の方々にも高く評価を受けることができた。今後は、「読書」を核とした保育実践を進めていく。</p> <p>○重点目標3・・・2023年度の学校評価では、未園児クラス、預かり保育の内容・方法等について、充実・改善を進めていくうえで、貴重なご意見をいただくことができた。2024年度にはオープンスクール、自由参観週間(在園児の保護者対象)を実施でき、幼稚園の「見える化」することができた。預かり保育の改善(定員なし、7時30分～18時30分)となり、夕方の預かりの30分拡大。未就園児クラスのカリキュラムの改善・充実を図ることにより、満3歳児・年少組への入園が増加につながった。「光塩幼稚園に行ってみよう。通わせたい。」と、想っていただけるよう、保護者の立場にたつた広報活動を行っていく。</p>

5 今後の取組項目

1.新園舎建築に伴う仮園舎における保育の充実	光塩幼稚園が開園以来、大切にしてきた「建学の精神」を土台とし、今の園児の実態に即した、保育内容の見直しを園全体で実践していく。(バランスのとれた自由保育と一斉保育の改善・工夫、幼児期終了までに育てほしい10の姿に即した保育内容の見直し等)
2.「読書」を核とした保育	<p>○司書との連携を強化し、「子どものそばにいつも絵本」の教育環境について、図書室から幼稚園全体に広げていく。</p> <p>○「読書」を核とした保育実践を推進していく。(「とうきょうすくわくプログラム」(探究活動)を教育計画に位置づけられる読書カリキュラムの再構築)</p> <p>○未就園児のクラスにおいても、図書室「えほんのもり」を活用し、子育て支援の一助とする。</p>
3.子育て支援の充実及び幼稚園のPR活動の充実	<p>○未就園児クラスのカリキュラムのさらなる改善・充実を行い、体験を通して、本園のよさを知っていただくとともに、次のステップにつなげていけるよう、教職員一人一人が自覚し、進めていく。</p> <p>○今年度も幼稚園のPR活動については、Instagramやホームページ、保護者会、説明会等において、改善・工夫を行ってきている。さらに、園児の様子を参観(オープンスクール、自由参観週間など)を学期に1回設定し、広報等を進めていく。</p>